

市政刷新

【発行者】

福岡市議会議員 調崇史（自由民主党 福岡市議団）



正論を市政に！
福岡市議会議員（城南区）

調たかし

平成最後の年頭に

早いもので4年間の任期も
あと数カ月を残すのみとなりました。
平成最後の年頭にあたり
次の時代の福岡を
さらに元気で住みやすく
温もりのあるまちにしていきたい
という決意を新たにしました。

福岡市議会議員 調たかし

議会質問

離島の学校にも目配りを

昨年10月8日から23日まで開かれた決算特別委員会で、質疑に立ちました。今回のテーマは不登校の問題に向き合う教育委員会の姿勢を問うものでしたが、特に離島の中学校における不登校対策が、福岡市本土側の学校と差がある点について、教育委員会の見解を尋ねるとともに改善を求めました。

福岡市では平成29年度から離島を除く全ての公立中学校に不登校対応教員を配置しています。この不登校対応教員は授業を受け持たず、登校に困難を抱えている生徒の自宅を訪問したり、不登校の子どもたちの保護者からの相談に応じるなどの支援活動に専従しています。こうした専従の不登校対応教員の配置は他の政令市と比較しても同様の例はなく、最も先駆的な取り組みと言えるものです。ただし、残念なことに、玄界島や小呂島など離島の中学校には配置されていません。離島の中学校は生徒数が少ないがゆえに、このような差異が生じてしまっています。教育委員会は、不登校対応教員を配置し

ない代わりに、島の住民などから相談員を募って、教員ではない人員を配置しているのが現状です。

一方で、離島の学校は本土側と比べて人間関係が固定されがちであり、友人とのトラブルをきっかけに、登校しづらくなっている生徒が現にいます。詳細を記すことは差し控えますが、今回の決算特別委員会での質疑に先だって、ある離島の中学校を訪ね、実態を調査してきました。離島の学校の生徒に対しては、教職員の目が届きやすいのは間違いのないのですが、「学校には通うけれども教室には行けない」といった悩みは、離島にも本土側にも関係なく存在するのだと思います。子どもたちが教育を受ける環境・条件において、離島と本土側ではっきりと差が生じるようなことは、好ましくないことだと思います。

質問では、離島の中学校に対する細やかな心配りを教育委員会に求めました。



話は少し変わりますが、近年の水産物の価格低迷のあおりを受けて、離島の漁業従事者は減少の一途をたどっています。これに合わせて漁業を基幹産業とする福岡市の離島の人口は減る一方になっています。離島の振興は国土の保全、或いは防衛の観点からも極めて重要であり、基幹産業である漁業の保護育成と併せて、子どもの教育環境も大事にしなければなりません。離島に暮らす人々、子どもたち、離島の学校に赴任するため家族と離れて暮らしている先生たち……。想いを寄せ続ける福岡市であって欲しいと思います。

福岡市議会は昨年9月の定例会でいわゆる「宿泊税」の導入を当局に促す、議員提案の「観光振興条例」を可決・成立させました。その後、同じく宿泊税の検討をしている福岡県との間で、市長・知事のトップ会談をはじめ実務的な協議の場が持たれていますが、昨年末までの段階では目立った進展はなく、対立構図が目立っています。

宿泊税については昨年5月に小川知事が会見で導入検討を表明。福岡市は遅れを取りましたが、市議会の有志が中心になって条例案を提案したことや、県のように市町村をまたいだ調整が必要ではなかったことなどから、「宿泊税を導入する」という結論では先行しました。以下は私個人の見解ですが、福岡市が結論を急ぎたかったのには理由があります。例えば子どもの医療費の助成について、県は一般の市町村には2分の1を補助しているのに対し、福岡市・北九州市の政令市には4分の1しか補助をしないといった前例があり、是正を求め

ていますが実現していません。宿泊税が県税になれば配分が冷遇されるのではないかとという心配が市側にはあったので、ゆくゆくは交渉材料となるように県よりも先に導入の結論を出すべきだと私は考えていました。しかし、いざ蓋を開けてみれば昨今の対立構図です。現状を見る限り市税と県税の二重課税となることは避けられないかと思いますが、トップ同士、実務者同士で早急に妥協点を探ってもらいたいと思います。



問題提起!

ロープウェイは本当に必要か!?

昨年12月の市議会定例会では、11月の市長選で3選を果たした高島市長が、博多駅からウォーターフロント地区までの間にロープウェイを敷設することを公約したことを受けて、関連する質疑がありました。

現在、福岡市は有識者を集めて、「ウォーターフロント地区への新交通システムとして何が最適か」についての検討委員会を作り、調査を依頼しています。その結論が出される前に、現職の候補者がロープウェイに絞って公約したことに対して、議会からは疑問視する声が上がりました。私たち自由民主党福岡市議団の討論の中でも「さすがに勇み足ではなかったか」と指摘したところでした。

現在の検討委員会はウォーターフロント地区で「将来的に1日16万人もの人の動きがある」という想定のもと、「道路空間を立体的に活用した新交通システムが必要になる」ということを前提にした検討が進められています。しかし、私はそもそも「1日16万人」という想定が正しいのかを検証する必要があると感じています。

年末年始の地域活動においても、ロープウェイについては非常に厳しいご意見を数多く頂きました。ロープウェイについては現段階では具体的に予算化されておらず、議会では本格的には議論されていませんが、私は「何をつくるのか」の前に、「本当に必要なのか」という点がしっかりと議論されるように、必要な主張をしていきたいと思っています。



福岡市議会の議員定数は現状維持に

今年4月7日に執行される福岡市議会議員選挙における改選数について協議してきた議員定数調査特別委員会（おばた久弥委員長）は、昨年12月の議会最終日に、7区全ての行政区において議員定数を現状維持（城南区は6人）とする結論を報告しました。

協議にあたって参考とされたのは平成27年度の国勢調査の結果でしたが、5年前の平成22年度の調査と比較しても全行政区で人口が増加していること等を考慮してこのような結論となりました。

福岡市議会議員選挙は、いわゆる統一地方選挙の前半の日程で行われ、福岡県知事・福岡県議会議員についても同じく4月7日に投開票が予定されています。

しらべ たかし

調 崇史 プロフィール

1978年 4月17日生 40歳

- 1978年 ● 福岡市生まれ
- 1991年 ● 七隈小学校卒業
- 1994年 ● 梅林中学校卒業
- 1997年 ● 修猷館高校卒業
- 2002年 ● 九州大学法学部卒業
TNCテレビ西日本入社
- 2010年 ● 同社退社
- 2011年 ● 福岡市議選初当選
- 2015年 ● 2期目の当選
現在、金山団地在住 妻と3女



ツイッター・フェイスブックなどと連動したサイトで、日々の活動の様子を紹介しています。
また、オフィシャルサイトからは市政に対するご意見を送れます。皆様の声を聞かせて下さい!



www.t-shirabe.net/

調 たかし 市政相談所

ぜひ、お立ち寄りください

〒814-0131

福岡市城南区松山2-5-5
志のぶビル201号

※市営地下鉄 金山駅から徒歩3分

七隈本町バス停から徒歩1分

TEL: 092-834-9984

FAX: 092-834-9983

mail: info@t-shirabe.net

調 たかし

検索